

慶應義塾大学 商学部

Keio University



慶應義塾大学 商学部

慶應義塾大学商学部 学部案内

慶應義塾大学商学部発行

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

03-5427-1566 (入学センター)

045-566-1014 (日吉学生部)

03-5427-1558 (三田学生部)

慶應義塾大学商学部ホームページ

<http://www.fbc.keio.ac.jp/>

発行日 2017年4月1日



社会のリーダーに必要なものが、ここにある。

福澤諭吉の意志を受け継ぐ「実学の精神」。この言葉に、商学部の教育・研究の理念が象徴されています。

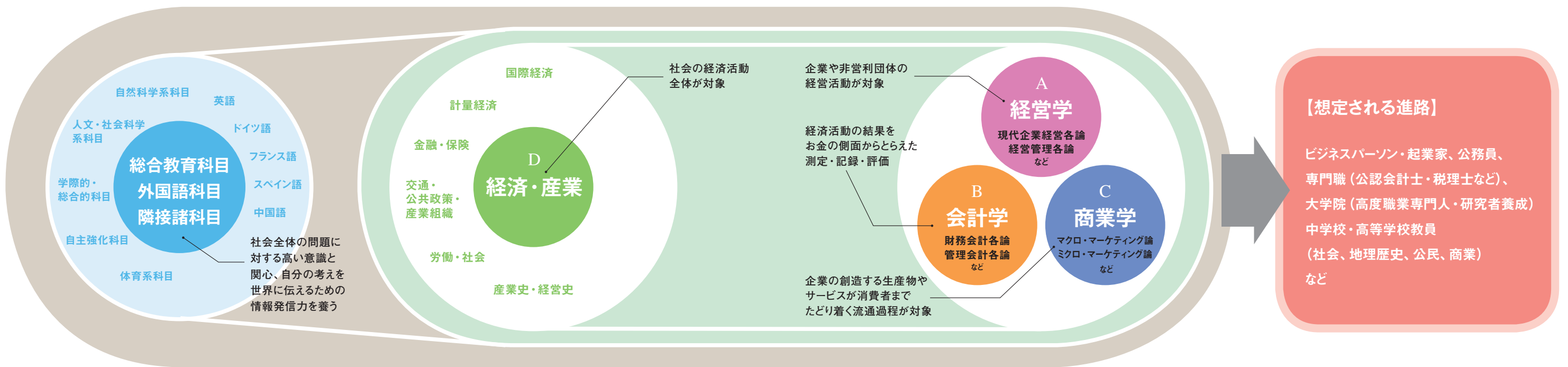
「実学の精神」とは、世の中ですぐ役立つ表面的な知識ではなく、これまでの常識にとらわれず、合理的実証精神によって物事の道理を究明し、その知見や科学的思考を現実の社会で活用することを意味します。

産業社会が抱える問題を自ら発見し、解決案を提示し、実行する能力、そして高い倫理観と責任感を兼ね備え、新しい社会を創造できるリーダーを育てること。それが商学部の目標です。

広く学び、深く追究する。商学部が 社会の新リーダーを育てる。



【カリキュラムのコンセプト】



産業社会をカバーする4つの領域が学べます

慶應義塾大学の商学部では、他大学の商学・経営・経済学部とは異なり「商学」を幅広くとらえ、現代の産業社会全体を対象にした広い専門領域を学ぶことができます。この専門領域の多様性は、商学部で学ぶ大きなメリットです。3・4年生で研究会を履修する際には、1分野を選んで専門性を高めますが、同時に他分野の科目を学ぶことで、産業社会全体を見わたす広い視野が得られます。

現代の社会が直面している問題の多くは、ひとつの専門分野の知識だけでは対応できません。社会全体に対する広い視野に支えられた専門性とコミュニケーション能力を追究してこそ、社会を変えるために必要な問題発見・問題解決能力が養成できるのです。

商学部の沿革

商学部は、近代的大学として日本最古の歴史を誇る慶應義塾において、福澤諭吉の業績とともに生まれ、理財科として成長し、商学系統の学問の成熟を待って独立した学部です。

- 1873 福澤諭吉がわが国会計学の先駆として、ブライアント＝ストラットンの簿記書を翻訳した「帳合之法」を公開
- 1890 「実業の世界に有用な器」を送るため、慶應義塾に商学関係の分野を重視する「理財科」を設置
- 1920 理財科を経済学部へ改称。経済学系統と商学系統の科目群に分類される
- 1938 経済学科と商学科を併置
- 1957 商学部開設
- 1961 商学研究科開設

福澤諭吉先生が日本に初めて簿記を紹介した書「帳合之法」



商学部を知るキーワード

- 独立自尊** 自己の判断・責任のもとに行動する剛毅の心を持ち、同時に他人を独立した個人として尊重すること。商学部ではそのための確かな基礎力を身につけます。
- 実学の精神** 独立した一個人が必要な知識を蓄え、それをもとに自分で考え、現実社会で活用することを指します。商学部では実学をさらに展開する独自の授業を設置しています。
- 半学半教** 教える者と学ぶ者が相互に教え合い学び合う仕組み。1～2年次の総合教育セミナーや3年次以降のゼミナールでより実感できます。

商学部での4年間で あなたを大きく成長させます。

商学部のカリキュラムは、変化し続ける経済社会を導く未来のリーダーに必要な、時代を見抜く力、専門知識とスキル、世界の人々とコミュニケーションする力を養成できるよう、総合教育科目、専門科目、外国語科目が4年間を通じて設置されています。

さらに最大の特徴は、慶應義塾大学の総合力を生かした多彩な科目から、学びを自分でデザインできることです。

会計士になりたい、実践的な語学を極めたい、金融の世界で働きたい、学業とスポーツを両立させたい、留学したい、など夢の実現に向けて自身の責任で自由に4年間を設計することが可能です。

4年間の カリキュラム

日吉キャンパスでの第1～2学年の学び、三田での第3～4学年の学びの連続性と一貫性を重視しています。

【総合教育セミナー】
自ら研究課題を見だし、読み・書き・発表などの学問の基礎を学ぶ。

【自然科学系科目】
心理学、生物学、物理学、化学、天文学、人類学、地学、地球科学概論など。文系学生を対象とした実験科目を含む。

【人文・社会学系科目】
300科目以上から選択。歴史、哲学、音楽、美術、文学、言語学、現代思想論、宗教学、地域文化論、中国事情、論理学、文化人類学、科学史など。

【学際的・総合的科目】
学際的な領域に目を向けて、物事をさまざまな角度や方法、考え方で見ていくために用意された科目。「日本の産業と経営」「21世紀の実学」「社会との対話」など。

【自主強化科目】
数学、統計学、語学を、より深く、将来のためのスキルとして学びたい学生のために開設。確率論基礎、ゲーム理論基礎、線形代数演習、データとの対話など。

【体育系科目】
体育研究所が開設する多彩な科目が選べる。スポーツ科学、サッカー、テニス、野球、フットサル、合気道、エアロビクスなど。

1 年次	総合教育科目、外国語科目とともに商学の基礎となる科目、数学などを学びます。	2 年次	1年次の対象領域に加えて、商学の専門知識を広げていきます。	3 年次	大半の学生が研究会（ゼミナール）に所属し、学校での活動が研究会を中心に進みます。	4 年次	専門性を追求し、研究会に所属する学生は卒業論文を作成します。
日吉キャンパス		総合教育科目・外国語・数学を中心に、商学の基礎となる科目を学びます。		三田キャンパス		ゼミナールを重視して、商業学、会計学、経営学、および経済・産業分野の知識を体系的・有機的に学びます。また多彩な教養、語学、数学を深めて専門に生かすことも可能です。	
教養を高める 総合教育科目	多くが学部共通科目で、文系・理系さまざまな分野の学生と交流しながら学べます。	I類 自然科学系科目→6単位以上必要 II類 人文・社会科学系科目 III類 学際的・総合的科目 *4年間通して学べる。 合計20単位以上必要（うち指定演習科目を2単位以上含むこと）	IV類 自主強化科目 V類 体育系科目→最高4単位まで	専攻科目 III類	多彩な科目から知をみがく 専攻選択科目	三田での専攻選択科目は、右欄の各分野の科目を自由に組み合わせることで履修できます。	III類（専攻選択科目）（IV類とあわせて46単位以上必要） A 経営 B 会計 C 商業 D1 国際経済 D2 計量経済 D3 金融・保険 D4 交通・公共政策・産業組織 D5 労働・社会 D6 産業史・経営史 →詳しくはP9・10をご覧ください。
世界に向けたコミュニケーション力を養う 外国語科目	外国語を使って何をしたいか自分の関心に応じて習得する言語を選べます。	必修外国語 英、独、仏、中国、スペイン語の中から2カ国語履修 その他の外国語 自主強化科目および専攻・関連演習科目として外国語中・上級のクラスがある。英語アカデミックライティング、英語ディスカッション、英語ディベート、ドイツ語インテンシブ、フランス語インテンシブ、中国語インテンシブ、スペイン語インテンシブなど。			専攻科目 IV類	半学半教の伝統でじっくり学ぶ ゼミナール（研究会）	少人数制で、担当する専任教員から個別指導を受け自身の濃い研究が展開されます。大多数の学生が三田での学びの中心と位置づける最も重要な科目で、原則2年間連続して学びます。
商学の基盤を固める 基礎科目	商学を専門分野として学ぶための、基礎を固める科目です。	I類（基礎必修科目） 経済学基礎I・II、微積分I・II、統計学I・II II類（基礎基盤科目） 経済史I・II、社会経済学I・II、私法基礎I・II ※4単位以上必要			専攻演習	研究会に所属しない学生のために、専門科目を演習形式で学ぶ科目。	
					関連課題研究	日吉で学んだ語学や数学を生かし、さらに発展させる授業。商学の専門の学びと連関させる総合力と応用力を身につけます。数学、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語の各分野の授業を設置。	
					専門外国書研究	高度な専門的研究を原書を教材に演習形式で行う科目。	
専門の基礎をつかむ 専攻科目	商学の専門の学習は日吉から始まります。第1～2学年で商学部の4つの専門領域「経営」、「会計」、「商業」、「経済・産業」の基本的な知識を身につけます。	I類（専攻核科目）10単位以上必要（科目指定条件あり） 経営学（環境と戦略）、経営学（組織と管理）、商業学I・II 基本簿記と財務諸表の見方、産業経済論a・b II類（専攻基本科目）4単位以上必要 応用簿記、応用経営学（企業をめぐる諸課題）、財務会計論、管理会計論、監査論、企業法、マーケティング・マネジメント論、経済学I・II ※I類との合計で18単位以上必要			外国語演習	中・上級向けの演習授業。	
				商学関連科目		商学部の学生が学ぶべき、専攻各分野に関連するさまざまな分野の科目です。	経済数学基礎、経済数学I・II、ゲーム理論、法学各論、経済学史a・b、その他教授会が適当と認める授業科目または商学部設置科目のうち商学関連科目として履修申告したもの（12単位以上必要）
				総合教育科目		日吉に比べ数は少ないものの三田でも人文・社会・自然科学の諸分野が学べます。	

カリキュラムのポイント！

目標に応じて デザイン可能なカリキュラム

将来の目標に合わせた科目選択が可能な柔軟なカリキュラムを提供しています。卒業後に活躍したい分野に必要な専門知識やスキルを広く学ぶことが可能です。

実学の精神と 半学半教の伝統

実務家による講義など、現実社会の課題を学ぶ科目が設置されています。また、1・2年次の総合教育セミナー、3・4年次の研究会をはじめとして、多くの少人数制科目が充実しています。

教養も外国語も 4年間学べます

商学の専門知識を極める専門分野はもちろん、時代への適応力を高める教養、世界に通用する自分を磨く外国語も、4年間いつでも学べます。

こんな科目が 待っています

学際的・総合的科目（日吉） 「日本の産業と経営」

日本の産業と経営をめぐるさまざまなテーマを採り上げ、それぞれを専門に研究する教授陣が講義を行います。商学部の幅広い研究領域について知り、問題意識を養うための1テーマ1回完結型の連続講義です。

自主強化科目（日吉） 「ゲーム理論基礎」

相互に影響を与えあふ人や組織の間に生じる利害の対立や協力の関係を分析するゲーム理論を身近な事例と対比しながら学び、問題に直面した時、現状を鋭く分析し、現実的な解決策を提案する能力を養成します。

専攻科目（三田） 「ミクロ・マーケティング各論 （消費者行動とマーケティング戦略）」

マーケティング戦略を考える上で重要な役割を果たす消費者の意思決定プロセスについて学び、実際のマーケティングにおいて、消費者行動の研究がどのように利用され、成果をあげているのか説明します。

日吉キャンパス風景

日吉キャンパス 夏の銀杏並木

日吉キャンパス メディアセンター

三田キャンパス メディアセンター

三田キャンパス 大銀杏

三田キャンパス 東門からのアプローチ



国際社会に貢献できる 独立自尊の人材を育成する。

国際性と 独立自尊を支える 確かな基礎力



慶應義塾大学商学部では、豊かな国際的感覚を備え、自分の頭で判断し、自分の力で実行する人材の育成をめざしています。その基礎を据えるのが、日吉で学ぶ語学と、経済学・統計学・数学の必修授業、および経済史や法などに関する選択必修授業です。

外国語によるコミュニケーションを学ぶ(外国語科目)	日吉の語学では、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語の中から2つの外国語の履修が必修となっています。外国語を学ぶことは、その言葉を話す人たちのコミュニケーションを可能にするだけでなく、文化を理解することにもつながります。商学部では多くのネイティブスピーカーが語学教育に携わっており、外国語習得のための本格的な環境が整っています。
社会を理解する基盤をつくる(基礎科目I類)	社会の動きを見通す目を培うためには、基礎的な素養が必要です。経済学は現代社会を理解するための一つの有力な羅針盤となります。統計学は現実のデータに基づいて判断を下すためのテクニックをあたえてくれます。数学は経済学や統計学の基礎であると同時に、論理的な推論を身につける訓練の場ともなります。
歴史的・制度的な視点を持つ(基礎科目II類)	分析的・数理的な側面から社会を見るだけではなく、歴史的・制度的な視点も培うため、経済史・社会経済学・私法基礎からいくつかの授業を選択して履修します。

→詳しくはP3およびP7をご覧ください。

基礎を深める



必修以外にも多くの語学・数学の授業が日吉・三田の4年間を通じて開講され、それぞれのニーズに応じて学習を深めていくことができるようになっています。

たとえば語学では、必修科目や自主強化科目(1・2年次)でスキルを中心に学習し、総合教育セミナー(1・2年次)や関連課題研究(3・4年次)では、修得したスキルを研究・発表に用いる場を提供します。また、英語については、毎年商学部英語スピーチコンテストを実施しています。

→詳しくはP3・4をご覧ください。

さらに、語学や数学を重点的に学習することができるよう、各種の授業を体系的にパッケージ化した強化プログラムが用意されており、各自の興味や目的にあった科目を履修し、学習できるようにその道筋を示しています。修了した際には認定証が発行されます。

強化プログラム

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語の各語学と数学では、当該分野を系統立てて重点的に学習してもらうことを目的として、強化プログラムを設置しています。

外国語と数学は、思考を展開し表現するためのツールです。それらを深く学ぶことで、より豊かな思考力、表現力、理解力が身に付いていきます。また、外国語を学ぶことは文化と歴史を学ぶことでもあり、より広い視野で物事が見られるようになります。

さらに、ビジネスの世界でも、語学力と数学的分析力はますます要求されるようになってきています。

強化プログラムは当該分野に関連するさまざまな授業をパッケージ化したもので、他の学部やセンターで提供される授業も含まれることがあります。強化プログラムを構成する授業から、所定の条件をみたしつ

つ、必要な単位数を取得した学生には、認定書が発行されます。所定の英語単位取得によりGPP(Global Passport Program)への応募資格につながります。GPPについてはP7をご覧ください。

スキルの習得 ≡ 総合的運用能力	1・2年次	3・4年次	外国語教育研究センター・国際センター設置科目
	必修英語科目	外国語演習	
	自主強化科目 (ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、リーディングセミナー、リスニングセミナー)		
	総合教育セミナー Academic Presentation Skills in English, Seminar in Leadership etc.		
	所定単位取得によりプログラム修了認定		

(英語の事例)

慶應義塾の総合力を生かし 多彩な科目で幅広い教養を獲得する。

商学部のカリキュラムで重視されているのが、学問の総合的応用能力です。

それを身につけるための基礎となるのが幅広い教養です。

商学部のカリキュラムでは、専門の学問を中心として、極めて多彩な分野の科目を選択することができます。

総合教育セミナー



異文化接触を考える (留学生セミナー)

この授業では、商学部に学ぶ外国人学生と日本人学生がともに学び合っています。さまざまな価値観やバックグラウンドをもつ学生たちが、それぞれの考えをぶつけ合い、成長し合う機会となっています。



日吉の専任教員が担当する少人数セミナーです。学問の基礎となる書物やデータを読む、情報を調査する、レポートや論文を書く、発表するといったさまざまなスキルを身につけるための授業が展開されています。

2016年度テーマ例

- ・『言語』の不思議をさぐる
- ・中国古代の歴史と思想を考える
- ・国際問題の研究と議論
- ・あまり計算をしない数学
- ・メキシコ革命を読む
- ・バイオテクノロジー・バイオビジネスを探る
- ・相対性理論
- ・イグ・ノーベル賞研究会
- ・企業に関する総合的な理解
- ・地域との対話

総合教育科目

学問の究極の目的は、人間をより深く理解すること、自然をより深く理解すること、それを通じて「生きる力」を養うことと言えるでしょう。各分野の先端に行く研究者たちに直接接しながら、哲学、歴史、芸術から、物理学、生物学、天文学に至る多彩な知識に触れることができるのも、慶應義塾大学の総合力の強みです。

生物学I・II(実験)



文系学生に向けた自然科学の実験科目(化学、生物学、物理学)が充実しているのも、慶應義塾大学の総合教育科目カリキュラムの特徴です。また、上述の総合教育セミナーにも自然科学系のテーマを扱うクラスが開講されています。

歴史I・II(イスラーム世界の経済史)

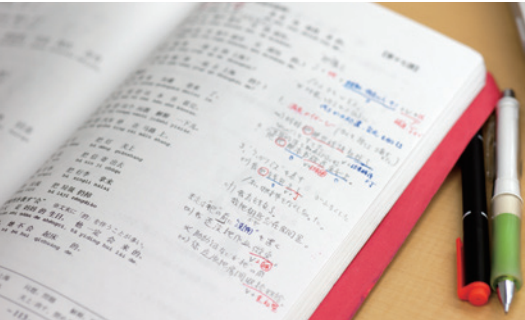


いま私たちがあたり前だと信じている考え方や生き方は、時代や地域が異なれば決して当然のことではありません。歴史を学ぶことにより、人間や社会の営みの変化や多様性を学ぶことができます。

音楽I・II



芸術は世界を深く理解し、自分を表現するための力です。総合教育科目「音楽」のなかには、合唱とオーケストラによる本格的なクラシック音楽を演奏するものもあります。





実学の精神にもとづいた 問題発見能力・問題解決能力を養成する。

商学部では、調査や体験、実務家の講義などを通じ、
さまざまな社会的な課題を自ら発見・理解するための授業を設置しています。
専門的知識を学ぶのみならず、
知識と社会とのつながりを意識して、実学の精神にもとづいた知見や思考をさらに深めることが目的です。

Global Passport Program ～「世界の」未来を先導する志のために～

経済・産業界が急速にグローバル化する現在、多くの学生の皆さんは、慶應義塾から世界へと飛び立ち、「世界の」未来を先導する志を持っています。これまで商学部では、福澤諭吉の「実学の精神」に則り、現実社会における諸問題の発見からその具体的解決に至るまでの総合的判断能力を持つ人材の育成・教育に力を入れてきました。しかし、「世界の」未来を先導するためには、さらに、広い視野で世界の事象を理解し、分析できる高い知的レベル、世界レベルの課題に果敢に取り組んでいくチャレンジ精神などが求められます。

「世界の」未来を先導する志に応えるだけでなく、このような志を持つ学生を多く育てたいという気持ちから、商学部では、全学部3～4年生を対象とした英語で行う選抜型プログラム「Global Passport Program」を始めています。その目的は、「グローバルに活躍する人材に求められる高い知的レベル、チャレンジ精神、自立心や多様性に対する理解度を育むための教育の実践」にあります。この目的を達成するために、①専門性の高いコースワーク、②理論と現実の接点を強く意識したワークショップ、③経験知を学ぶアクティビティ、

という3つの特徴を持つカリキュラムで学んでいきます。①については、大学院生に入門レベルとして提供している科目の履修を通じ、高度な専門知識を英語で学んでもらいます。②については、外国人教員による少人数のゼミ形式授業を履修し、理論に即し、現実の問題を解決するプロジェクトに取り組みます。コースワーク、ワークショップともに、多くの留学生が履修しており、三田キャンパスで世界の多様性を学ぶことが可能です。③については、オフ・キャンパスでの活動を通じ、世界に通じる道を体験し、経験知を蓄積していきます。毎年、工場・企業施設見学、グローバルなシーンで活躍している日本企業及び外資系企業のリーダーや、世界的な公的・国際機関のトップによる講演会を実施しています。また、Overseas Field Trip として、約1週間かけて米国や欧州の企業や自治体の先端的な取り組みに関する実地研修を実施しています。プログラムに参加するには、一定の要件を満たす必要があります。毎学期所定の期間に、TOEIC、GPA（成績評価）、自己PR動画をを用いて応募者の中から上位40名を選抜しています。修了要件を満たした学生には、商学部長よりGlobal Passport Holderとしての認証が授与されます。



地域との対話 (1・2年生対象)



この授業は総合教育セミナー（P6参照）の科目の一つです。キャンパス近隣の日吉や元住吉などでフィールドワークを行いながら、地域が抱える様々な問題（商店街の活性化・子育て・障がい者支援・地域コミュニティのあり方など）について調査し、考察や提言を行います。フィールドでの観察や発見によって、地域社会が直面する現実的な課題を理解し、学問的に考察していきます。この一連の活動を通して、より実践的な思考力を養います。

過去のテーマ例

- ・地域コミュニティと商店街の活性化（2013年度～2015年度）
- ・障害者スポーツと多様性を受容する地域社会（2013年度）
- ・商店街活性化と新しい地域メディア（2011年度）
- ・障害者の自立支援・地域社会への参加（2011年度）
- ・モトスミ・オズ通り商店街の店舗・消費者調査・提言（2007～09年度）

21世紀の実学



各界で活躍する塾員（慶應義塾の卒業生）を講師として招き、オムニバス形式で行う授業です。研究者や大学教員とは違った視点を持った、社会の第一線で活躍する人たちの考え方や知識の一端に触れることができます。学生の視野を広げ、より大局的かつ具体的に物事を考えられるようになることを目的としています。これにより学生たちは、勉学に対する態度をより充実したものへと深化させています。

過去のテーマ例

- ・ソーシャルネットワークでの先端広告のあり方～「個」としてのコミュニケーションの重要性～
- ・世界の金融界を舞台に～積極性と丁寧なコミュニケーションの結実～
- ・リレーフォーライフ：がん患者とともに～ボランティア活動の意味と意義～
- ・日中近代史を見る～日本と中国の狭間で書くということ～
- ・他人と協働するとはどういうことか
- ・Tech for the Deaf ～技術を聴覚障害者のために～
- ・クラウド・ファンディング、マイクロメセナの活動～現代アートを日常へ～

寄附講座

さまざまな企業・団体の芳志により、商学部では多くの寄附講座を設けています。教員がコーディネーターとなり、毎回講師を招いて、テーマに沿った講義が進められます。最新の動向をもとに、毎年度様々なテーマの講座が開講されます。2016年度には以下の授業が開講されています。

プルデンシャル生命保険寄附講座 「営業から学ブリーダーシップ」

組織活動において営業とはいかなることか？ 個人にとってだけでなく、組織、社会とのかかわりを具体的な仕事を通して深く考察する機会を提供することが本講義の一つの目的です。講義を通し、学生自身の人生やキャリアをどのように考え、将来の幹部としてのリーダーシップ力を醸成していくのかという点について、ともに議論し考察していきます。

経済広報センター寄附講座 「人口減少下における日本経済と企業の成長戦略」

1989年以来続く、経済広報センターによる企業人派遣講座です。この講座では、毎年異なる一つの共通テーマのもとで、実社会で活躍されている方々にオムニバス形式による講義をしていただいています。

みずほフィナンシャルグループ寄附講座 「現代の企業金融」

財務会計の基本的な知識を持つ受講者を対象に、昨今の金融情勢を踏まえ、さまざまな資金調達手法を解説していきます。

日本取引所グループ寄附講座 「現代の証券市場」

授業では、資金調達・資金運用面で急速に重要性が増している「証券」に焦点を当て、証券市場の仕組みや最新動向を考察します。



4領域・9分野の 多彩なジャンルで専門性を磨く。

商学部の専門教育は、経営、会計、商業、経済・産業という4領域の柱からなっています。

これらを具体的に支えるのが、日吉と三田の両キャンパスにおける一貫した専門教育のプログラムです。

第1・2学年

日吉キャンパス

4領域の基礎がため

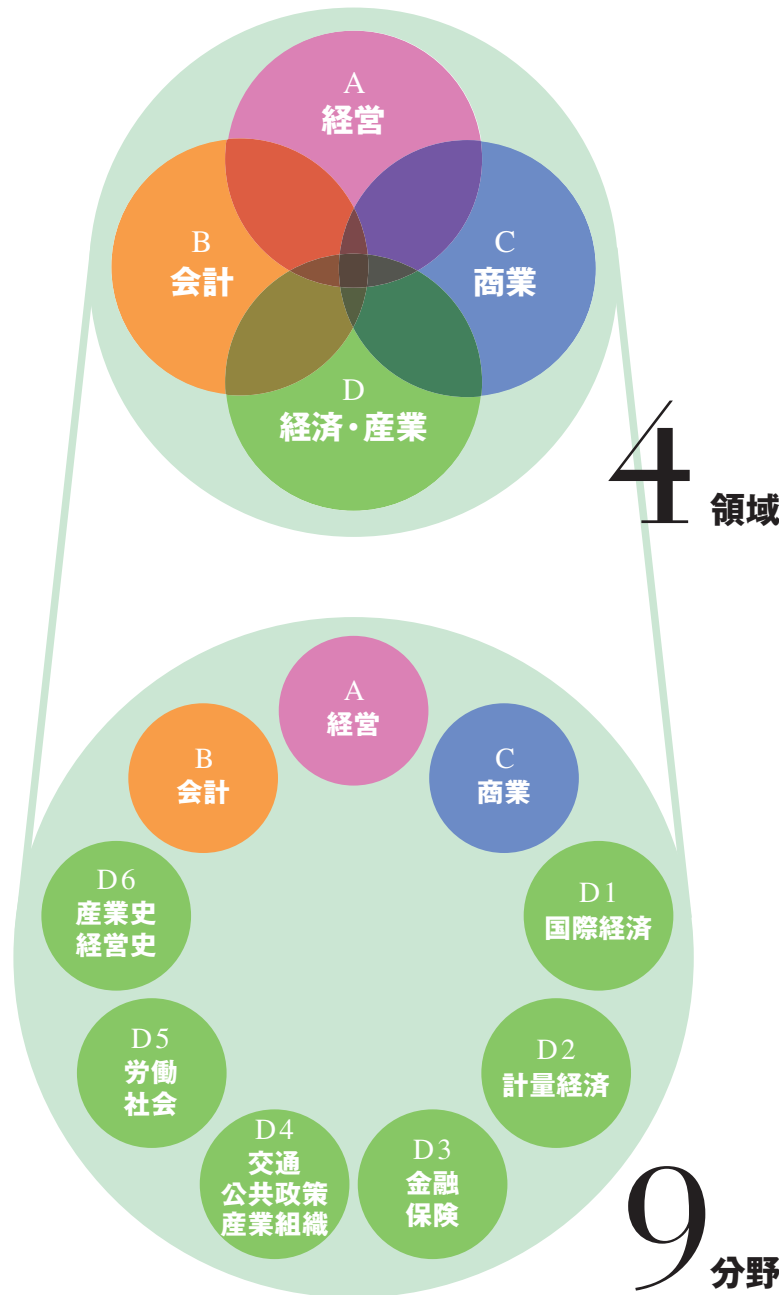
経営、会計、商業、経済・産業の4領域を学ぶ上で必要不可欠な、基本的な理論や分析ツールを学びます。また、経済学基礎、微積分、統計学といった必修科目の学習は、どの専門分野にも共通する土台を築くために役立ちます。

第3・4学年

三田キャンパス

多様な専攻分野からの選択

日吉時代に培った幅広い教養・総合的判断力や専門分野の基礎を生かし、生きた学問をより深く学んでいきます。具体的には、4領域・9分野の多様かつ充実した専攻科目を履修するとともに、少人数制の研究会（ゼミナール）等の演習科目を通じて専門的な知識を学びながら、自らの考えを形成し議論する力、現実社会を対象とする問題発見・解決能力を養います。



専門分野・専攻科目紹介

A 経営	B 会計	C 商業
企業経営や組織についての理論的また方法的の研究だけでなく、現代日本の企業に対する実証的・計量的研究を含めた広範な問題を扱っています。そこで扱われるアプローチもアメリカ経営管理論からドイツの経営経済学にまでおよんでいます。 科目例 現代企業経営各論 経営管理各論 経営学説史各論 PICK UP グローバル化、情報化の進展した今日の競争環境の中で企業がいかに生き残りをはかっているかをさまざまな理論や実証的手法を用いて明らかにします。	洋式簿記の最初の紹介者である福澤諭吉を祖として、その伝統を守っています。財務会計、管理会計、会計監査を国際的、戦略的、歴史的な観点から取り上げています。 科目例 財務会計各論 管理会計各論 会計監査各論 会計史I・II 会計史各論 PICK UP 近代会計の成立プロセスを会計の機能の面・構造の面から考察、中世イタリアから16・17世紀ネーデルラントを経て19世紀末のイギリスまでを扱います。	商品やサービスを中心として起こる市場の問題を、理論的・経験的に解明することを目指しています。その対象は、マーケティング意志決定、流通・小売、広告・コミュニケーション、消費者行動、流通政策、マーケティング史にまでおよんでいます。 科目例 マクロ・マーケティング論 マクロ・マーケティング各論 ミクロ・マーケティング論 ミクロ・マーケティング各論 マーケティング学説史 マーケティング史 PICK UP マーケティングでは、顧客や市場を理解し、製品、価格、プロモーション、流通を効率的に組み合わせることが重要です。このための理論や手法を学びます。
D1 国際経済	D2 計量経済	D3 金融・保険
国際化時代の今日、世界経済と不可分の関係にある日本経済を見据えながら、貿易、資本移動、技術移転、国際通貨制度といった問題の理論的・実証的解明、政策的提言を図ります。 科目例 国際経済学I・II 国際経済学各論 世界経済論I・II 世界経済各論 国際金融論I・II 国際金融各論 PICK UP 国境をまたぐ経済活動を扱う国際経済学の概論科目です。国際貿易（商品やサービスの取引）と国際金融（資金の取引）を理論的に説明し、政策効果を見ます。	経済学の理論が現実の経済社会に当てはまるかどうか、データを用いて検証するのが計量経済学の役割です。日吉で学ぶ経済学と統計学の知識を駆使し、社会で常識とされている仮説を批判的に検証します。 科目例 理論経済学各論 計量経済学各論 経済統計 PICK UP 世の中の常識の多くは、胡散臭いデータと理論による見せかけのものだったりします。そうした「見せかけの法則」を暴き、世の中の「真の法則」を探求します。	金融の分野は、個々の経済主体の金融問題から国民経済全体の貨幣的側面まで幅広く研究対象を包摂します。保険の分野は経済的保障のうちでもっとも重要な保険制度を対象とし、その制度の経済的、機能的、数理的な諸側面が分析の対象になります。 科目例 金融論I・II 金融各論 財政学I・II 財政学各論 証券経済論I・II 証券経済各論 保険学I・II 保険学各論 リスク・マネジメント各論 PICK UP 金融システムとは何か。金融機関や証券市場はどんな役割を果たしているか。また家計や企業の資金運用・調達はどうかあるべきなのかを明らかにします。
D4 交通・公共政策・産業組織	D5 労働・社会	D6 産業史・経営史
資本主義経済における望ましい市場競争のあり方ー競争と独占ーを究明することを目指します。また、交通などの公益事業を取り上げ、政府規制の在り方を分析の対象とします。 科目例 交通経済論 交通経済各論 産業組織論 産業組織各論 PICK UP 産業・市場における競争のあり方を究明し、消費者にとって望ましい企業の行動とは何か、また政府規制のあるべき方向性を示します。	仕事と暮らしの経済学です。具体的には個人の就業行動、企業の雇用行動、それらが調整される労働市場の分析です。またその中の労務管理、組織心理、さらに仕事と暮らしを社会的に支える社会保障などについても考えます。 科目例 労働経済学I・II 産業関係論I・II 産業関係各論 産業社会学I・II 産業社会学各論 組織心理学a・b 社会保障論I・II 社会保障各論 PICK UP 労働者、労働組合と使用者である企業の関係が対象であり、特に企業が従業員をいかに活用すれば利益の増大につながるかという労務管理を取り上げます。	経営戦略や組織、取引制度、金融、消費行動、政策など、個別の視点から産業や企業活動の歴史的变化を分析し、その発展や衰退のメカニズムを探ります。また現代の産業・企業が直面する問題がどのように発生したのかを解明します。 科目例 産業史 産業史各論 経営史 経営史各論 PICK UP 日本における産業の発展・衰退がどのような要因によって生じたか、産業間の相互依存関係、政策、経済制度、技術移転などの側面から明らかにします。



半学半教を実践する研究会で、さらに専門を極める。

慶應義塾の「半学半教」の伝統を最も色濃く受け継ぎ、三田での学びの中心に位置づけられるのがゼミナール（研究会）です。専門的な知識を学びながら、自らの考えを形成し、議論する訓練をします。担当教員の指導のもと、少人数で学び合った絆は卒業後も続いています。

A 経営分野

谷口和弘研究会



会社経済を理解し、グローバル時代にふさわしい越境的な思考・行動を通じて持続可能性の実現に貢献する。

比較制度分析、戦略経営論、会社と持続可能性に関する研究成果をふまえ、企業・地域経済・国・地球の持続可能性を同時実現しうる望ましい制度や組織のあり方を模索しています。分野や国などのさまざまな境界を越えるのに必要な知識や行動力としての越境力をもつ、グローバル人材の育成を志向しています。とくに、社会で生じつつある問題を機敏に感知し、その解決に向けて冷静な頭脳と温かい心で変化を適宜に導くことを重視します。

卒業生からのメッセージ

西村恭美子 2010年度卒業
(東京・國學院高等学校出身)

理論と現実の双方に配慮し、経営や経済の本質を学べる当研究会。コミュニケーション能力を重視し、商学部の実学の精神を体現したゼミと言えます。卒業後も各国・各界の広いネットワークを通じて、仲間同士支え合っています。



佐川麻弥 2014年度卒業
(東京・都立西高等学校出身)

当研究会では、文系と理系の越境的な視点から社会の諸問題を分析し、その成果を他人達に発信していく訓練を重ねています。また、活動内容や運営方法について自由に意見を述べ、それが実際に反映されていく点は魅力的です。



B 会計分野

園田智昭研究会



会計情報を用いて、企業を始め、NPO・政府など、あらゆる組織の問題を解決し、業績を評価する。

管理会計は、企業だけではなく、NPOや政府など、あらゆる組織で行われる意思決定と業績評価のために必要な情報を提供します。ゼミでは、管理会計について深く学習するとともに、3年次でのグループ研究、4年次での卒業論文作成を目的として活動をしします。また、他のゼミとのインターゼミや、社会人との交流など、ゼミ内に留まらない活動の機会を豊富に作ることで、社会で活躍する力を総合的に身につけています。

卒業生からのメッセージ

小野寺亮二 2013年度卒業
(神奈川・私立サレジオ学院高校出身)

当研究会では、園田先生の熱心なご指導の下、社会人の方々との交流を通じて、実務的な側面からも管理会計を学びます。私は在学中に公認会計士試験に合格しましたが、当研究会で学んだ知見は、試験勉強では得られない財産です。



高橋亜里沙 2014年度卒業
(東京・香蘭女学校高等学校出身)

当研究会で戦略的管理会計を専攻しています。この学問は、非財務的視点も必要とされるため、会計の枠を超えて幅広い知識を養うことができます。ゼミ以外の活動にも熱心に取り組んでいる仲間たちと、日々切磋琢磨しています。



C 商業分野

小野晃典研究会



製品、価格、広告、流通…身近な社会経済現象に関わる謎を、科学的に探究する。

「なぜその製品は売れたのか」「なぜ価格が高いのに売れたのか」「なぜ広告を行ったのに売れないのか」「なぜ幅広く流通させたのに売れないのか」…商業分野のトピックスは、買手として誰もが日常的に接している社会経済現象に関連していますが、意外にも未だ解明されていない多くの謎に満ちています。当ゼミナールは、そのような謎に対して「理論と実証」を駆使して挑戦しようとする、意欲溢れる塾生たちの集団であり、その研究成果は、国内外に広く発信されています。

卒業生からのメッセージ

水田英英 2013年度卒業
(愛知・私立南山高等学校出身)

ゼミナールは、ゼミ生たちによって自主運営される科目です。運営に積極参加することによって、組織運営の何たるかを学ぶこともできます。卒業して社会に出た今、ゼミ運営を通じて培ったリーダーシップや主体性が、本当に役立っています。



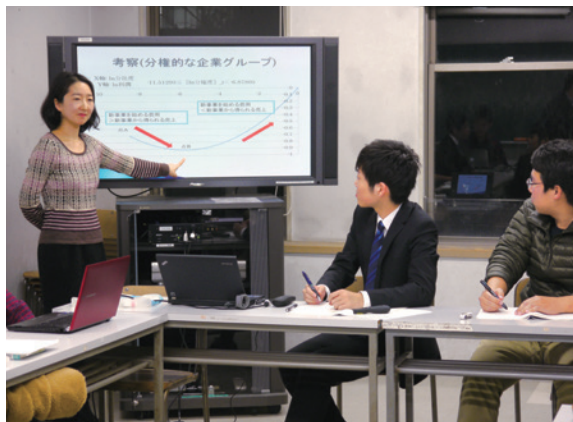
石井隆太 2014年度卒業
(栃木・県立栃木高等学校出身)

高校までと同じく大学にも教科書を使った授業がありますが、当ゼミナールでは、自ら知識を生み出し、いわゆる教科書を書き換えるような研究を行っています。私たちゼミ生は、そうした研究活動に従事し、楽しく充実した日々を送っています。



D2 計量経済分野

大野由香子研究会



実証研究-理論とデータ分析により社会科学における法則の発見を目指す。

社会科学における実験室は社会全体です。複雑な社会から出てくるデータを用いて真の法則を見つけるには、実験データを用いる場合より更に高等な解析力が必要であると共に、表面的な法則を真の法則と取り違えないための計量手法の深い理解と理論的洞察力が欠かせません。本研究会では、これから実際の社会に出る学生に、社会科学の真髄を感じてもらおうことを目標に、実証研究の過程を体感してもらいます。

卒業生からのメッセージ

松園直樹 2013年度卒業
(神奈川・慶應義塾湘南藤沢高等部)

塾内の他ゼミ研究発表を行う学生会や、海外大学とのインゼミなど学術的交流が多い当研究会。計量経済学の知識を用いて、現実社会で起きている金融・経済・社会問題など、各々の関心のあるテーマについて実証研究を行います。



佐藤翔平 2014年度卒業
(千葉・八千代松陰高校出身)

私はこの研究会で様々な事象を実証分析する手法を学んでいます。私にとって実証分析の魅力は、感覚的にはわからない分析対象の関係性を見出せる点です。私の目標は卒業までに実証分析の手法をできるだけ多く習得することです。



商学部の教育機関

会計研究室

会計研究室は、公認会計士および税理士の資格取得を目指す人のための機関です。専任教員のほかに公認会計士や他大学教員を講師に迎え、日吉では、日商簿記検定試験対策の指導を、三田では公認会計士試験に向けて基礎学力を養うための問題配布と添削を実施しています。

担当教員からのメッセージ

会計研究室では、講義・添削の実施、会計関係月刊誌・書籍の閲覧等資格試験受験者のサポートを行っています。

また、日吉において新入生を対象として公認会計士に関する説明会を、三田において会計・経営に関する公開講演会を開催するなど学生に向けて様々な情報発信を行っていますので、有効に活用していただきたいと思います。

大学院

商学研究科

【修士課程】

入学定員：80名
専攻：商学

【後期博士課程】

入学定員：20名
専攻：修士課程と同じ

概要

商学研究科の基本理念は、福澤諭吉の「実学」の精神を継承し、理論と実証を通じて現代のグローバルな産業社会を把握し、進歩と変革の方法を洞察することです。この理念のもと、商学研究科では社会のリーダーとなりうる研究者やプロフェッショナルの育成を目指しています。商学研究科では多彩な教授陣による総合的・体系的な特色あるカリキュラムを設置して、専門的な知識と広い視野の修得を両立していきます。

進路

修士課程では、後期博士課程に進学する将来の研究者、ならびに経済社会の運営に中心的役割を果たせるプロフェッショナルや企業経営者、社会システムのリーダーを養成します。後期博士課程では、国内外の大学、研究機関、シンクタンク等で活躍する質の高い研究教育者を養成します。

大学院に関するお問い合わせはこちらまで	〒108-8345 東京都港区三田2-15-45 慶應義塾大学学生部学事グループ商学研究科担当 03-5427-1558 慶應義塾大学入学センター 03-5427-1566
---------------------	--

資格取得・就職・進学など、多様な進路

卒業後の進路

公認会計士試験合格者を大学別で最も多く輩出しています

商学部では公認会計士や税理士を目指す学生をサポートしています。42年間連続して大学別合格者数トップの実績を誇り、全合格者数の10%以上を塾生や塾員が占めています。本塾出身の公認会計士・会計士補はすでに4,000人を超え、なかでも商学部出身者は確固たる地位を固めています。卒業後の進路では近年、ジャーナリズム、情報産業、官公庁に進む者も増える傾向にあります。

2016年度公認会計士試験
大学別合格者数一覧※

順位	大学名	人数
1	慶應義塾大学	139名
2	早稲田大学	96名
2	中央大学	96名
4	明治大学	72名
5	東京大学	36名
6	同志社大学	33名
7	立命館大学	29名
8	関西学院大学	27名
8	法政大学	27名
10	神戸大学	26名

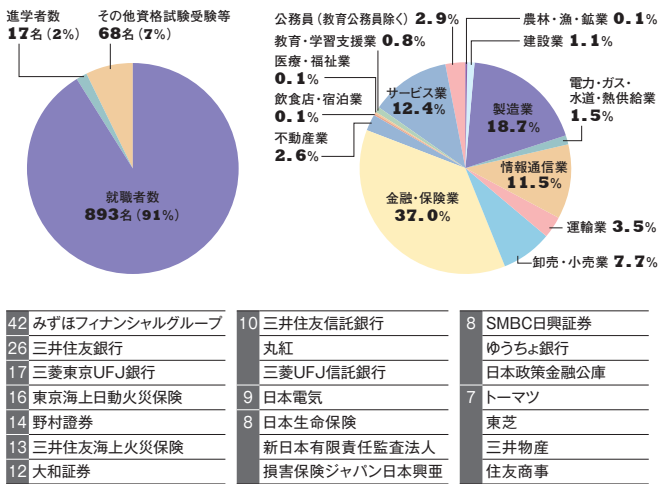
公認会計士試験
大学別合格者数
42年連続
第1位!

【その他の資格・試験】

- 税理士試験
- 中学校・高等学校教員免許
- 公務員試験 など

※公認会計士三田会調べ(院卒・会計専門職大学院卒は出身校別人数に含まず)

2015年度商学部卒業生就職状況 (2016年4月30日時点の進路届に基づく)



学びを充実させる多彩な支援・制度

国際交流

慶應義塾派遣交換留学制度

本塾と世界の有力大学の間で交換協定を結び、相互に学生を1年間派遣。200名以上の塾生が交換留学生として世界の大学に派遣されています。また、多くの留学生が本塾で勉強に励んでおり、現在、その数は70カ国以上1,000名を超えています。

交換留学など、学則に定められた「留学」と認められ、海外の大学で正式な手続きを経て正規生と同じ授業を受ける場合には、留学先の大学で修得した単位を一定範囲まで卒業に必要な単位として認定する制度があります。認定された単位数と商学部で修得した単位数の合計が進級条件を満たせば、留学期間は1年間に限り慶應義塾大学の在学年数に算入され、帰国後に遡及して進級することも可能です。在学中に留学しても4年間で卒業できる道が開かれています。

短期海外研修プログラム(夏季・春季)

全学部・研究科在籍生を対象に、夏季・春季休校期間中に開催。米国や英国、フランス、オーストラリア、シンガポール等で短期集中型の国外学習を経験できる貴重な機会です。

【慶應義塾大学から世界へ】

塾生の留学先			
人数	国・地域	人数	国・地域
120	米国	4	シンガポール
67	フランス		ベルギー
40	英国	3	スペイン
31	ドイツ		ニュージーランド
21	中国	2	アイルランド
18	オーストラリア		アルゼンチン
12	イタリア		ノルウェー
カナダ		1	インドネシア
10	韓国		オーストリア
8	スイス		トルコ
スウェーデン			ロシア
6	台湾		
5	オランダ		
合計382名			

(2016年5月1日現在) ※私費留学も含む

【世界から慶應義塾大学へ】

留学生の出身国・地域			
人数	国・地域	人数	国・地域
568	中国	13	オーストラリア
262	韓国		カナダ
98	台湾	11	スペイン
84	フランス	9	イラン
65	米国		ロシア連邦
51	ドイツ	7	サウジアラビア
38	インドネシア		スウェーデン
32	タイ	6	チュニジア
29	イタリア		ブラジル
26	ベトナム		モンゴル
22	マレーシア	5	エジプト
16	インド		スイス
15	英国		フィリピン
14	シンガポール		ベルギー
			ミャンマー
その他 4名3カ国、3名9カ国、2名9カ国、1名29カ国 合計1,518名			

(2016年5月1日現在) ※交換・奨学金・私費留学も含む

奨学制度

主な奨学制度一覧

【入学前申請】

奨学制度名		種別	金額(年額)	期間	備考(対象など)
学内	学問のすゝめ奨学金	給付	60万円 (医学部:90万円、 薬学部薬学科:80万円)	1年 (毎年の審査により標準修業 年限の継続受給が可能)	一般入学試験前に申し込み、書類選考により候補者認定を受けた場合、入学後の奨学金給付が約束される制度。一般入学試験に合格し入学することが条件。奨学生候補者数は500名を予定し、日本国内(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県を除く)を6つのブロックに区切り、ブロックごとで選考する。

【入学後申請】

奨学制度名		種別	金額(年額)	期間	学年	奨学生数(2016年度実績)		備考(対象など)
						申請者数	採用者数	
学内	慶應義塾大学 給費奨学金	給付	50万円	1年 (再申請可)	1年生 2年生以上	— 378	— 222	経済的に修学困難であると認められ、勉学の意欲を持ち、成績・人物ともに優秀な者。
	慶應義塾大学 修学支援奨学金	給付	学費の範囲内	1年 (再申請可)	1年生 2年生以上	— —	— —	勉学の意欲をもちながらも、急激な家計状況の変化、あるいは、継続的な困窮のため、経済的に修学が困難な者。【2017年度新設】(2017年度は100名程度採用予定)
	慶應義塾維持会奨学金	給付	医・理工・看護医療・薬学部 80万円 その他学部 50万円	1年 (再申請可)	1年生 2年生以上	145 208	37 75	慶應義塾維持会基金により運営。人物・学業ともに優れ経済的に学業に専念することが困難な者を対象とし、地方出身者を優先する。(2017年度は119名採用予定)
	指定寄付奨学金	給付	奨学金により異なる (10万円～60万円程度)	1年 (再申請可)	1年生 2年生以上	196 1039	18 180	三田会(同窓会)や篤志家等より寄付された資金で運営。学部・学年・出身地など申請資格が限られる場合がある。

商学部から皆さんへのメッセージ

問題に立ち向かい、社会の発展に
寄与する「人財」を育てる

商学部は、慶應義塾創設から100年目の1957年に誕生しまし

た。幕末に福澤諭吉が海外から簿記・会計のシステムを導入して

以来、長い歴史のなかで培われてきたアカデミズムの伝統と、その

中核をなす福澤の「実学の精神」を色濃く継承し、現実社会にお

ける諸問題の発見からその具体的解決に至るまでの総合的な判

断能力を育てていくことを学部目的としています。

これから大学で学ぶ皆さんにとって重要なのは、今すぐ将来の夢

や進路を決めることではなく、自分や社会のさまざまな問題に正面か

ら立ち向かって悩み、解決に向かって行動することを通じて夢を追

い求めるプロセスです。

本学部が教育理念として掲げる「問題の発見、仮説の構築、

仮説の検証、主張の提言・発信」といった一連の作業は、まさにそ

のプロセスの中で一人一人の問題意識や能力・知識を磨き、将

来、社会のリーダーとして自立して考え抜き、社会の発展に寄与でき

る「人財」を育てるためのものです。本学部では常に新しい課題に

取り組む行動力に富み、チャレンジ精神旺盛で多様な人財を受

け入れていきたいと考えています。

多様な個性を受け入れる
4つの入試制度

一般入試

一般入学試験によって選抜する方式で、高等学校卒業までに蓄えた学力を筆記試験の得点で計ろうとするものです。A方式(外国語、地理歴史、数学)、B方式(外国語、地理歴史、論文テスト)の2つの方式があります。

帰国生入試

外国高校出身の帰国生が対象です。

留学生入試

外国高校出身の留学生が対象です。

推薦入試(指定校)

指定校からの学校長推薦に基づく推薦入学制度です。学業以外にも優れた実績を持つ、個性豊かな学生を求めています。

入試についての問い合わせ先:慶應義塾大学入学センター
〒108-8345 東京都港区三田2-15-45 TEL 03-5427-1566(直通)

慶應義塾大学
ウェブサイトのご案内

慶應義塾大学ウェブサイト

http://www.keio.ac.jp/

商学部ウェブサイト

http://www.fbc.keio.ac.jp/



慶應義塾大学
ガイドブックのご案内

カリキュラム・キャンパスライフ・入試統計etc.
詳しい情報は「ガイドブック」で

「ガイドブック」では、学部の紹介はもちろん、キャンパスライフ、国際交流、奨学制度、就職など、慶應に関するより詳細な情報を掲載しています。また「ガイドブック」には入試日程や科目、過去のデータなどをまとめてあります。慶應義塾大学をもっと知っていただくために、「ガイドブック」をご活用ください。

ガイドブック請求までの流れ



1
商学部ウェブサイト
「入試制度」をクリック!



2
入試制度
ページ下方の
「慶應義塾大学ガイドブック」
をクリック!